

# 平成 25 年度継続事業に関する継続評価書

研究機関 : 株式会社日立製作所

研究開発課題 : 超高速・低消費電力光ネットワーク技術の研究開発  
課題 I (d)マルチコアファイバ光接続技術

研究開発期間 : 平成 24 ～ 26 年度

代表研究責任者 : 坂本 健一

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)  
(評価点 20 点／ 25 点中)

## (総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

## (コメント)

- 実質半年間の研究期間であるが、計画通りの進捗であり、今後も十分な成果が期待できる。
- 特筆すべき成果が現時点では見られないため、今後に大いに期待したい。
- 多くの最終成果が出ることを期待できる。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果が認められる。  
順調に目標を達成している。

(コメント)

- ほとんどの課題において方式検討が終了している。
- 試作機作成準備が整い、年度末までには試作機が完成予定。
- 年度末までには予定通りの発表件数を達成見込み。
- 特に問題はない。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

研究資金が有効かつ効率的に執行されている。  
予定通り支出されている。

(コメント)

- 研究費はほぼ予定通り執行されている。
- 特に問題はない。

### (3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

#### (総論)

研究開発の実施計画は実施期間を通して実行可能であり、有効かつ効率的に組まれている。  
柔軟かつチャレンジングな計画となっている。

#### (コメント)

- 研究が順調に実施されており、また H25 年度および H26 年度分の課題の前倒しも可能としている。
- 課題ア「マルチコア多重分離化・冗長化技術」で最終年度目標を 25 年度で実証する計画とした。
- 課題イ「マルチコア光接続小型実装技術」でコネクタの変更を提案した。

### (4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

#### (総論)

翌年度の研究開発実施計画との整合が図られ、全体的に適切な計画となっている。  
具体的かつ明確である。

#### (コメント)

- 有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。
- 特に問題はない。

## (5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

### (総論)

研究開発を実施する体制は妥当である。  
適切に実施体制が組まれている。

### (コメント)

- 24年度に研究員を2名増員したのは評価できる。